



社団法人ロシアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所 次長

服部 倫卓

激減した日ロ貿易

過去最大の縮小

日本財務省は今般、2009年の日本の貿易統計を発表しました。そこで、この統計にもとづき、2009年の日本とロシアの貿易動向につき、ご紹介したいと思います。

2009年の日ロ貿易は、輸出入合計で121億4,855万ドルとなりました(日本財務省の統計を米ドル換算、速報値、以下同様)。これは、前年比59.0%の縮小です。とくに輸出の落ち込みが激しく、前年比79.8%減の33億68万ドルに終わりました。輸入の落ち込みはそれよりは小幅ですが、それでも前年比33.4%減であり、88億4,787万ドルにとどまっています。

いずれも、日ソ/日ロ貿易の時代を通じて、史上最も大きな縮小率を記録した格好です。2008年夏まで続いてきたバブルの反動という側面が大きいにせよ、日ロ貿易にとって2009年が不振を極めた1年だったことは間違いないでしょう。

ちなみに、「日ロ貿易は不振の時は日本側の入超となる」という法則があります。2009年の日ロ貿易もその法則どおり、55億4,720万ドルと過去最大の日本側の入超となりました。

日ロ貿易のパフォーマンスをより細かく、月別に跡付けると、2008年9月のリーマン・ショックを受け、同年11月頃から縮小が始まり、半年ほど激しい落ち込みが続きました。ただ、底だったのは2009年の春頃であり、それ以降は緩慢ながら回復に向かっています。



COLUMN



自動車輸出の不振

日本側の輸出に着目すると、近年、日本の対ロシア輸出に占める自動車の比率が高まり、中古車や商用車も含めれば、2008年の時点で全体の4分の3を占めるに至りました。2009年に日本の対ロシア輸出が(ひいては日ロ貿易全体が)急激に縮小したのは、まさにこの最重要品目が一転して不振に陥ったからです。最も重要な品目である新車の乗用車に関して言えば、2008年の輸出が45.8万台(85.6億ドル)であったのに対し、2009年の輸出は5.4万台(10.3億ドル)にとどまりました。また、中古車の輸出も、ロシア側の関税引き上げで、新車以上の打撃を受けています。ただし、自動車部品やタイヤのように、自動車関連でますます健闘している品目もあります。

LNGの輸入開始が朗報

次に、輸入について見てみましょう。2009年に日本の対ロシア輸入が大きく減ったのは、日本側の不況による需要減もさることながら、資源・コモディティ価格の下落によって総額が押し下げられたという側面が大きいと思われます。その典型が原油であり、2009年の輸入量が前年を14.0%上回ったにもかかわらず、輸入額は29.2%縮小しました。

そうしたなかで、2009年の日ロ貿易における最大のトピックは、サハリン2の液化天然ガス(LNG)プラントが稼動し、そのLNGが4月から日本に入荷し始めたことです。2009年通年では、277万トン、9.5億ドルのLNGが輸入されており、同品目は早くも日本の対ロシア輸入の約1割を占めるに至っています。

